

# 市政ひろば



市民まつり

## 淡路だんじり祭を開催

南あわじ市市民まつり「淡路だんじり祭」が四月二十九日、三原健康広場で行われました。市内各地から豪華絢爛なだんじり二十八台が集まり、伝統芸能「だんじり唄」の発表や獅子舞の披露などが行われ、一万五千人の来場者を魅了しました。



▲獅子舞の披露

春うららかな日差しが降り注ぐ中、太鼓の音を鳴り響かせ市内各地から布団だんじりや投げだんじりが、玉ねぎ畑に面した道路を通過して三原健康広場に集まりました。会場では、フリーマーケットや子ども向けのゲームコーナー

ナ、南あわじ市と交友関係のある東かがわ市と鳴門市の物産店などが設置され、早くからたくさんの方の来場者で賑わいました。グラウンドでは、砂埃を巻き上げながら勢い良くだんじりが一斉に練る「総練り」や



▲砂埃を巻き上げながら練るだんじり



▲玉ねぎ畑の道を通り、だんじりが連なって会場へ



▲節回しを合わせてだんじり唄を熱唱



▲だんじり唄に聞き入る来場者



▲子どもだんじりも参加。唄も披露しました



▲配役を熱演する祭礼団員

投げだんじりの披露が行われました。また多く露店が並び駐車場でも獅子舞が披露され、見るものを圧倒させました。舞台では、各集落の若者らで構成する祭礼団により伝統

芸能「だんじり唄」を次々と披露。息を合わせて大声で歌い上げる「連れ節」や感情を込め浄瑠璃の登場人物を演じる「語り」などを熱唱し、来場者から大きな拍手と歓声を受けていました。

## なつかしの郡役所蘇る

## イングリッドの丘に国生みの館



▲旧三原郡役所を復元した「国生みの館」

このほど、島内最古の木造洋風建築として貴重な歴史的文化遺産が、蘇りました。震災で被災し、解体・保存していた旧三原郡役所を復元した、「国生みの館」が完成。四月二十八日、その竣工式が淡路ファームパークイングリッドの丘で行われました。施設は鉄骨二階建て、延べ面積三三三㎡。壁板や床板など半分近くを旧部材で再利用。内部には、淡路の観光地をアナウンスする映像と立体地図、淡路ゆかりの著名人のパネル、島内産品。二階には旧4町の合併関係資料などが展示されています。

明治十七年、市青木の交差点（現在のセンターパーク）に郡役所として建設。その後県や町村会、埋蔵文化財などの事務所として使用されてきましたが、老朽化の上、平成七年阪神淡路大震災で半壊したため、解体しました。しかし、住民からの強い保存要望を受けて、県は保存とともに、淡路の情報発信拠点として効果的な活用方法を検討。その結果、年間四十五万人もの集客力のある同公園を設置場所に決めて、昨年から工事を進めていたものです。

## 本を通じて親子のふれあい

## 読書つ子まつりを開催

子どもの読書活動について関心と理解を深め、また積極的な読書意欲を高めるために「第五回読書つ子まつり」を四月二十二日、南淡図書館で開催しました。当日、家族連れら約二千人が来館。図書館周辺を散策しながら歴史や自然について学ぶ「まち探検」や凧作り、パルーンクラフト、クイズ大会、



▲「赤ずきんちゃん」の朗読でコスチュームを着た人物も登場

手作りおやつコーナーなど盛りだくさんに行われました。おはなし会ピノキオ（楓るみ子代表）ではパネルシアター「防災劇」を上演。南海地震が発生したときの物語を朗読しながら、パネルに絵や人形を張ったり、はがしたりして、子どもたちに「備え」の大切さをわかりやすく説明していました。

## ふれあい市長室

南あわじ市長 中田勝久

## 大橋等通行料金の低減化へ向けて、淡路島民の結集を！

### 15万人署名にご協力をお願いします

神戸淡路鳴門自動車道の通行料金低減化について、各方面への陳情や県・国会議員などへの支援依頼等努力を重ねてまいりましたが、道路公団の民営化による採算性や自主自立という社会情勢から、たやすいものではありません。先日も国土交通省に要望書の提出をいたしましたところであり

明石海峡大橋、大鳴門橋間の割高感により島内では、国道二十八号線や西浦県道への迂回大型車が多く、交通安全対策として適切な対応をしなければなりません。また、島内を活性化させるため、観光を中心とした交流人口の増大、各産業の輸送料軽減や企業誘致、定住対策など、通行料金の低減化は淡路島にとって非常に重要な課題となっております。

尚、一方的な要望だけではなく、「上げよう通行量、下げよう通行料」をスローガンとして、より一層の魅力ある淡路島づくりやすばらしい「ふるさと資源」の有効活用など、自らの努力と工夫も必要です。この機会を捉え、市民の皆様と共に頑張つてまいりたいと存じます。

そこで、運動を加速するため島内の各種団体や三市が結集し、「神戸淡路鳴門自動車道